

## 年 頭 挨 拶

会 長 吉 野 浩 行



明けましておめでとうございます。2007年の年頭にあたり一言ご挨拶申し上げます。

昨年を振り返りますと、我が国の産業は不況から脱し新たな成長を始めましたが、これは企業各社の努力の積み重ねとその成果が着実に効果をあげてきているものと思います。その中でも知的財産活動は、日本の産業界の「知」を可能な限り活用し、そして守るための活動として、非常に有効なものであることが認識され、さまざまな強化策がこの数年の間、検討されてきております。こうした検討においては、産業界の知財に関する意見を代表している日本知的財産協会の役割が非常に重要なものであったと思います。実際に知財制度の世界最大のユーザー団体である日本知的財産協会から発信される意見が実際に日本の知財政策を左右することもこれまで多々あったと思います。その流れはまだ続いており、今年もさらに積極的な日本知的財産協会の活動が期待されています。

日本の知的財産推進計画は、2003年から2005年までを第1期として、基本的な制度改革の実施や産学官の協力体制の整備などを行ってきました。2006年からは第2期として、世界最先端の知財立国を目指し、知的財産を活用した国際競争力強化などの新たな取り組みを行っており、それぞれ知的財産の創造の観点からは大学等における知的財産創造の推進、保護の観点からは保護の強化、模倣品・海賊版対策の強化、活用の観点からは知的財産の戦略的活用、国際標準化強化、ベンチャー支援などの課題をあげております。

また、それらを推進するためには、知的財産分野の人材強化が急がれるとしております。当協会への期待も大きく、それに応えてゆく使命を担っています。

また一方で国際的な連携もこの数年で急速に進んでいます。2005年にミュンヘンで行われた三極特許庁長官とユーザーの会合に、日本知的財産協会が日本のユーザー代表として参加し、日米欧の出願書類の統一を主張しました。2006年においてはその会合は日本において行われ、具体化に向けて一気に進みました。このことは日本知的財産協会から発信した意見が、世界の知財制度にまで影響を与えているといっても過言ではないと思います。日米欧の三極ユーザー団体の会合はこれまで定期的に行われており、日本知的財産協会は今後も世界の中で、日本の知財制度のユーザー代表として、いろいろな調整をはかっていきます。

※本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

日本知的財産協会の会員は年々増加しており会員数は1,125会員です。これからも会員の皆様のご支援とご協力の下に、日本知的財産協会は産業の発展に貢献する知財活動をめざして、より積極的な活動をしていきたいと思いをします。

会員の皆様のご活躍とご健勝をお祈り申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

